

令和6年度

# 糸島市 未来の地域リーダー

## 育成プログラム活動報告書

令和6年度  
糸島市未来の地域リーダー  
育成プログラム活動報告書

主 催：糸島市未来の地域リーダー育成プログラム実行委員会  
事務局：糸島市生涯学習課内  
〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号  
TEL 092-332-2092



## はじめに

福岡県と糸島市で構成する「糸島市未来の地域リーダー育成プログラム実行委員会」では、中学1、2年生を対象に、将来さまざまな分野で活躍するための意識付けを目的に令和5年度から「糸島市未来の地域リーダー育成プログラム」を実施しています。

このプログラムでは、糸島に縁のある方、糸島で活躍されている方々による実体験を交えた講義・体験・グループワーク等で、構成する合宿型リーダー育成プログラムを実施するものです。

また、他の中学校の生徒とコミュニケーションを図り、志を高め合いながら合宿生活を通じて、切磋琢磨しながらリーダーとなるための心構えを学ぶことができます。

プログラムの実施にあたっては、地域の多様な団体と連携して、子どもたちが地域に愛着と誇りを持ち、将来を担う次世代のリーダーとしての資質や社会性を身に付けることができるように人財を育成していきます。

目 次	糸島市未来の地域リーダー育成プログラムの概要 . . . . . 01
	講師紹介 . . . . . 02
	活動報告 . . . . . 03
	作文紹介 . . . . . 11
	まとめ . . . . . 15

## プログラム概要

- ①主 催 糸島市未来の地域リーダー育成プログラム実行委員会(糸島市・福岡県)
- ②後 援 福岡県教育委員会
- 【第1回目】令和6年10月26日(土)~27日(日)1泊2日  
【第2回目】令和6年11月23日(土)~24日(日)1泊2日  
【第3回目】令和6年12月14日(土)1日間  
【第4回目】令和7年 1月19日(日)1日間  
【第5回目】令和7年 2月 1日(土)1日間
- ③開催日程
- ④会 場 糸島市役所、イトシマ(株)(糸島サイエンス・ヴィレッジ はじまりの地)、高祖神社、九州大学伊都キャンパス(九州大学水素エネルギー国際研究センター)、(株)タケマン、(合)こっから、(有)北伊醬油、住吉丸、怡土コミュニティセンター、引津コミュニティセンター、伊都国歴史博物館、初音旅館、ホテルAZ福岡糸島店
- ⑤参加状況 募集対象:糸島市在住の中学1・2年生 16名
- (1)講師陣による講義・体験  
(2)フィールドワーク(現地見学)  
(3)グループワーク  
(4)グループ発表・個人発表
- ⑥プログラムの概要

## 講師プロフィール

原口 唯氏 株式会社 YOUI  
代表取締役

糸島市で育ち、2011年に九州大学芸術工学府修了後、都市開発コンサルティング会社、自治体シンクタンクを経て、2017年に社会価値提案のコンサルティング会社「株式会社YOUI」を設立。2021年度からは長崎大学でも勤務し、福岡と長崎の2拠点居住している。  
※コーディネーター兼任



弥富 明子氏 株式会社Carna  
代表取締役

生まれ育った「糸島」の地形や歴史から、糸島食材はなぜ美味しいのかなどの魅力を発信しながら糸島食材を使った加工食品の企画・販売・デザイン制作を行う。また、『知っとうかいな糸島』の編集長としても糸島の食と歴史を発信。



金子 晃介氏 九州大学  
学術研究・産学官連携本部 准教授

九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター(QREC)にて、アントレプレナーシップ教育と研究に従事している。2014年に九州大学大学院システム情報科学府に於いて博士号を取得後、情報科学分野での研究者としての経験を経て2021年から現職に至る。



林 卓也氏 峰勝鋼機株式会社  
代表取締役社長

1978年福岡市生まれ。北海道釧路市での学生生活を経てシューズメーカーに就職。営業、マーケティングの経験を積み、2009年峰勝鋼機株式会社に入社後、2024年代表取締役役に就任。猪捕獲農用のパネから人工衛星用のパネまで幅広く展開。



小津 智一氏 株式会社OZ Company  
代表取締役

山口県出身。NPO法人ファザリング・ジャパン九州代表理事。「父親であることを楽しもう」を合言葉に九州に父親の笑顔を広げる活動を進める。また(株)OZ Companyの代表取締役として事業所内保育やイベント保育事業を展開中。



三嶋 直子氏 イトシマ株式会社  
広報部長

糸島市職員(文化財・秘書・広報・企画の担当)として20年間勤務。2024年4月からは糸島サイエンス・ヴィレッジを民間主導で実働させるため、まちづくり会社に転職。生成AIなどの先端技術を駆使しながら、糸島の自然や伝統・文化を生かしてより良いまちづくりに挑戦。



西原 正通氏 九州大学  
水素エネルギー国際研究センター 教授

熊本県出身。世の中に役立つ技術を作り出したいと考え、化学を専攻。様々な機能を持つプラスチック材料の開発に取り組む。現在は、二酸化炭素の排出を抑える次世代のクリーンエネルギーとして期待される水素エネルギーに関わる材料開発を推進。



大谷 直紀氏 合同会社こっから  
代表社員

ベンチャー企業から大手企業の組織開発・人材開発・ビジョン策定に携わる。米国ミネルバ認定講師。「Managing Complexity」人類学を応用した組織開発コース「Leveraging Organizational Culture for Impact(EPIC)」修了。本屋アルゼンチン店主。人間環境学修士。



吉野 優子氏 株式会社タケマン  
代表取締役

1981年熊本生まれ、埼玉育ち。2013年夫と(株)タケマンを設立。ラーメン屋さんに喜んでもらいたい一心で本気でめんまを作る。2022年代表取締役就任。世界一ラーメン屋さんに寄り添うメンマの会社を目指して奮闘中。



山上 弘司氏 有限会社北伊醬油  
代表取締役

明治30年創業の醤油製造会社 北伊醬油 六代目 東京農業大学醸造学科卒業後は、辻調理師専門学校との和食コースで1年間勉強し、大阪の和食店にて3年間修行する。使う側の気持ちに立つべく、その後、北伊醬油へ入社し、現在に至る。



佐藤 彰子氏 料理教室IZUMI  
主宰

福岡県糸島市出身。中村学園大学 栄養科学部を卒業。管理栄養士を取得後、市内のッキングスクールにて料理講師兼マネージャーとして6年間勤務。現在は、糸島を拠点に魚のさばき方と魚料理を教える教室、福岡・糸島の伝統食を伝える活動、子ども料理教室に力を注いでいる。





令和6年度  
糸島市未来の地域リーダー育成プログラム「開講式」

## 令和6年度 糸島市未来の地域リーダー 育成プログラム

### 10/26 講義録

#### アイスブレイク 14:10~

開講式終了後は、まずはじめに、研修生の緊張をほぐし、コミュニケーションを図るために、九州大学の学生ボランティア企画によるアイスブレイクを実施し、初回の講義に向き合いました。



#### 講義 ① 15:30~

最初の講義①は株式会社YOUI代表取締役原口唯氏から、「見えない未来の見つけ方〜フィールドワーク入門〜」というテーマで講義いただきました。この講義では、フィールドワークの基礎として、



#### 開講式 (10/26 13:35~)

今年度で2年目となる糸島市未来の地域リーダー育成プログラム。今年度参加の研修生が糸島市役所に集合。研修生の中には、昨年度参加者の顔ぶれも。開講式においては、福岡県知事、糸島市長からの激励の言葉を受け、研修生代表者が研修への決意を誓いました。

キーワードから連想し思考を広げる力(連想力)や対象に興味をもってしっかり聴く力(傾聴力)を意識し、話すコツ、聞くコツなど、先の講義で必要となるポイントを教えていただきました。



#### 夜神楽 19:20~

宿泊先での夕食後は、国の重要有形文化財として指定されている高祖神社に移動。福岡県無形民俗文化財に指定されている高祖神楽。小中学生が舞う子供神楽を中心に見学しました。凛と舞う子どもたちの中には、研修生の知り合いも。その姿に、感嘆する声もありました。



### 10/27 講義録

#### 講義 ② 9:30~

講義②は九州大学准教授金子晃介氏と九大生より、「九大生と学ぶ社会課題解決」をテーマに講義して頂きました。始めに、金子先生より九州大学とアントレプレナーシップ(起業家精神)等について紹介を頂き、地域の社会課題の解決に挑戦する大学生の研究について話していただきました。一つめは、小川竜矢さんから「地方大学生バイト人材紹介モデル」と題して、九大生と雇用者間でのミスマッチから見えてきた課題を、二つめは、青沼颯空さんから「青空棚田プロジェクトinいとしま」と題して、「美しい棚田を守りたい…」そのためにはどのようなことが考えられるか。最後は、弓場元悠人さんから「XR技術を糸島に広めるためには」として、現在どのような活動をしているかについて、お話しいただきました。

その後、研修生には、3つのうち興味があったテーマごとに分かれ、九大生とともに課題解決に向けた取り組みを話し合い、テーマごとに発表してもらいました。



#### 前原散策 11:00~

昼食前に、歴史ある前原商店街を散策しました。散策は、単に歩き回るだけではなく、お題として、good(いいところ)とmotto(ここ変えたらいいのにな)を探し、写真を撮ってもらいました。撮った写真は、昼食後に、なぜその写真を撮ったのかと併せて、発表してもらいました。



#### 講義 ③ 13:30~

講義③は株式会社OZ Company代表取締役小津智一氏による「たくさんのドア」というテーマの講義でした。山口県出身の小津さんが、糸島に居を構えるに至った経緯を皮切りに、起業に至った経緯、起業後うまくいかなかった経営、人との出会い等から得られた初めての仕事など、これまでの経験を踏まえ、次世代のリーダーとして、「ビジョンを持つ」「困りごとを知る」「コミュニケーション力をつける」ことをアドバイスいただきました。

また、小津さんの「悩んだときは、まわり道をした方が近道より早いことがある」という言葉に印象を受けた研修生もいました。



## 11/23 講義録

### 講義 ④ 10:30~

講義④は九州大学水素エネルギー国際研究センター教授西原正通氏による「みらいのエネルギー～脱炭素化を進めるには～」というテーマの講義でした。



講義では、現在のエネルギーを取り巻く環境や脱炭素化に向けた水素エネルギーの役割と現状などの話を通して、環境や開発を考えるうえで、「極論で感情的に議論しないこと」や「長期的、俯瞰的な視野で全体を捉えることができるか」などが必要になるとアドバイスをいただきました。

また、「常識・普通を気にせず考えて行動する」、「『できること』より『やりたいこと』をやった方が後悔は少ない」と講師自身のこれまでの経験を踏まえ、考え方や生き方の参考に助言をいただきました。

研究センターでは、水素充填体験のほか水素自動車と一緒に記念撮影もしました。



### 講義 ⑤ 13:30~

講義⑤は株式会社タケマン代表取締役吉野優子氏による「何ができるか」というテーマの講義でした。

株式会社タケマンはメンマのみを扱う全国でも珍しい会社です。吉野さんは代表就任当初、「自分にできることは何か」を熟慮され、自分で得意と思えるところから、「自分ができること」「熱い思いを持つこと」など、目標に対する向き合い方などをお話いただき、



ちょっとしたワークショップも行い研修生にも何ができるかについて考えてもらいました。

講義のあとは、工場へ移動し、メンマスナックづくりを体験し、味付けから封入まで行いました。また、乾燥したメンマの材料を前に作業の一部を説明いただき、充実した講義となりました。

### 特別体験 15:00~

タケマンさんと同じ加布里漁港にあるカキ小屋住吉丸へ徒歩で移動。株式会社筒井水産代表取締役筒井秀和さんにカキの生育などについて説明いただきました。カキの成長の妨げになる殻についた付着物。不着物を取り除く作業を体験させていただき、研修生は、真剣な眼差しで丁寧に取っていました。



### 特別体験 17:00~

本日の宿泊先初音旅館へ移動。移動後は、旅館の広間でヨガ体験を実施。講師を真似て、みんなでチャレンジ。うまくいくポーズもあれば、うまくいかないポーズも。気軽に行えるリラククス方法の一つであるヨガを笑いも絶えず体験できました。

ヨガのあとは、BBQを行い、煙が充満する中、研修生同士の交流が深まりました。



### ワーク 20:00~

コーディネーターの原口氏により「インフォーマル・コンステレーション」というワークを実施し、研修生一人一人のリーダーに対する考えが見えてきました。

## 11/24 講義録

### 講義 ⑥ 9:30~

講義⑥は料理教室IZUMI主宰佐藤彰子氏による「食でつながる糸島」というテーマの講義でした。

講義では、佐藤氏の糸島の食、郷土の食に対する想いや、テレビドラマでの活躍などこれまでの活動などについてお話いただきました。特に「故郷の味」「自分の家の味」は食べた人にしか作れないことから、食べ・作り・伝え続けていくことが大切であることを学びました。

早速実践すべく、糸島のブランド魚「特鮮本鱈」を捌き、また、郷土料理である「そうめんちり」と「おむすび」を作りました。

なかなか手にする機会のない本鱈を研修生たちは、手ほどきを受けながらも、きれいに捌くことができました。



## 講義 ⑦ 13:00~

講義⑦はCarna代表取締役弥富明子氏による「糸島の歴史と豊かな食文化」というテーマの講義でした。

講義では、自社農園で作っているねぎを活用した事業展開やイベント開催など、ねぎを多くの人に届ける取り組みを行うなど経営者の面での話のほか、伊都国の歴史的背景とともに王墓、出土品や神社などからわかる五穀豊穡に対する人びとの営みや、全国に全く同じものはないこの糸島の地形、風土など歴史的な背景からも、糸島の食について話していただきました。

佐藤さんと弥富さんのお話から、郷土を愛すること郷土への想いを研修生も感じたのではないのでしょうか。

お二人のお話のあとは、伊都国歴史博物館を見学。ボランティアでも展示ガイドをしている弥富さんに案内いただきました。



## 12/14 講義録

## 講義 8 10:15~

講義⑧は、峰勝鋼機株式会社代表取締役社長林卓也氏から、「糸島のモノづくりが宇宙で活躍中!」をテーマに講義を頂きました。はじめに、バネの種類や用途を、実物を見せながら紹介していただき、そして、「人との出会い」が「糸島のモノづくり」と「宇宙」を繋ぐきっかけとなったこととお話し頂きました。林さんは、これまでの経験を踏まえ、未来の地域リーダーを目指す研修生に向けて、「色々な角度から物事を捉えよう」「人との出会いで可能性は無限大」「繰り返しアウトプットしよう」の3つの言葉を送られました。

講義の後には、実際にバネを作る機会を設けて頂き、研修生たちは自分好みの「ボールペンのバネ」を真剣な面持ちで作っていました。



## 講義 9 13:00~

講義⑨では、イトシマ株式会社広報部長三嶋直子氏に「新たな可能性を切り拓く糸島サイエンス・ヴィレッジ(以下、SVI)の挑戦」をテーマに講義を頂きました。三嶋さんは、糸島市職員を経て、SVIとイトシマ株式会社の取り組みに可能性を感じて入社されました。まずはじめに、糸島の「新たな知の拠点」であるSVIの説明と、SVI実現に向けて行っている取り組みを紹介して頂き、特に、最先端技術である生成AIを基盤としたまちづくりについて詳しく説明されました。その後、研修生たちは、実際に生成AIと会話できる機会を頂き、生成AIの回答の精度や進歩に驚いていました。



## 1/19 講義録

## 講義 10 10:00~

講義⑩は、合同会社こっから大谷直紀氏に「Learning Agilityを育てる」をテーマに「こんな働き方もありという選択肢(可能性)」「面白い力(Learning Agility)の重要性。損得を超えて豊かな人生を。」を研修生に届けたいとお話いただきました。

大谷さんが所属する合同会社は、前身が「学生団体こっから」だったこともあり、社員全員が友人関係で、お給料も全員一緒に事業計画・事業目標なしという、一般的な株式会社等とは異なる組織体系でした。また、糸島のラーメン屋でのおっちゃんとの出会いから揺さぶられた経験や「これからの新しい働き方」のヒントなど糸島での気づきも話していただきました。

「人生を、Playfulに」というビジョンを掲げて人生を楽しむために、Playfulにつながるさまざまなチャレンジを実践する大谷さんから「おもしろがる力」を身に付けてほしいと、働き方を大きく左右する言葉をいただきました。

大谷さんに大きな影響を与えた「おっちゃん」の考え方には、研修生も、大きな影響を受けていました。



## 講義 11 13:30~

講義⑪では、有限会社北伊醤油代表取締役山上弘司氏に、見学・体験・講話の3つで講義して頂きました。醸造所見学では、昔と変わらぬ杉桶仕込みのこだわりの製法にくわえ、糸島の大豆農家等との連携による循環型の取組などSDGsを意識した醤油づくりについて説明いただくとともに、利き醤油や醤油プリンを体験しました。また、ポン酢作りも行い、研修生たちは、世界で一つだけのポン酢を楽しみながら作りました。講話では、「郷土を想い未来を想う」をテーマに講義いただき、北伊醤油の「飲食事業」や「他分野とのマッチング」などの新しい取り組みに、山上さんの経験がどう活かされているのかをお話いただきました。特に、講義の中で出てきた「1.01の法則と0.99の法則」は、研修生の心に大きく響いていました。



## 2/1 グループ発表・個人発表

糸島市未来の地域リーダー育成プログラムの最終日では、7日間の研修を踏まえて市役所においてグループでの発表と個人での発表を行いました。

発表会には、保護者の方々にも参加していただき、研修成果やこれからリーダーになっていくお子さんの姿を見ていただきました。また、質疑応答では研修生や実行委員から質問があり、活気のある発表会となりました。



## グループ発表のまとめ



糸島の現状として良い点は、人と人とのつながりの深さ、自然が豊かでSDGsに積極的なこと、そしてそれらを活かしたイベントが多いことです。一方で、ゴミのポイ捨てや少子高齢化、インフラが整っていない地域があります。この現状を踏まえて、20年後の糸島は「少子高齢化社会とポイ捨てなどによる自然環境の悪化」が考えられます。

こうならないために、20年後に求められるリーダーの考え方は、「一つの物事をさまざまな視点で見ること、出会いをチャンスに変えること、周りの状況を知ろうとすること」、そして、「常識にとらわれない自由な考え方、感覚を大事にする柔らかな考え方」だと思います。

以上のようなことを身に付けるために、「1.01の法則と0.99の法則」のように、毎日少しずつの努力が必要だと思います。また、自分の意見や考えを伝えるコミュニケーション能力、たくさん外に出ることで新しい視点を広げることが大事だと思います。



「多様な言語を話せる人、新しい事業を考えられる人、地域の魅力を発信できる人」が20年後のリーダーに必要なと思います。

糸島市の現状として、人口は増加傾向にありますが、生産年齢人口は減り、老年人口が増えています。私たちは、生産年齢人口減少の原因を、人々が高賃金の仕事を求め、糸島市から福岡市へ流出してしまうからだと考えます。その対策として、糸島でしかできない新たな産業を起こすこと、賃金を上げることが大切だと考えます。

20年後の糸島は、人口は減少し、少子高齢化が進んでいると予想できます。私たちは、人口と生産年齢人口が増加してほしいと思っているため、糸島に来る人を増やし、糸島から出ていく人を減らしたいと考えています。

そのためには、外国人移住者を受け入れやすくし、市外の人に糸島市で働きたいと思ってもらうため、冒頭のようなリーダーが必要だと思います。



現在と今後の糸島市の課題として、国道202号線の混雑、空き家の増加、そして後継者問題があると思います。実際に後継者問題については、前原商店街にシャッターが下りている店が見られ、全国平均を上回る糸島市の高齢化率が原因の一つだと考えます。このような現状を解決するために、私たちは「外国人の受け入れ」を提案します。

外国人に、空き家や観光地で働いてもらうことで、糸島市全体の知名度上昇になり、観光人口増加につながり、そして、それが糸島で働いたり移住したりするきっかけとなると考えます。このサイクルが、後継者問題の解決につながるのではないかと考えます。しかし、人口が増加すると、国道202号線の渋滞が悪化するため、道路を拡張する必要があります。

これらの取り組みを行ううえで必要とされるリーダーは、「外国人への魅力発信ができ、そのために必要な言語を話すことができる人」だと考えました。



糸島市の現状として、自然の豊かさ、人の優しさ、お年寄りが多いこと、豊かな食文化、観光客が多いこと、電車が少ないといった点が挙げられると思います。この点を踏まえ、20年後の糸島市は、老人ホームや電車ができて都会のようになる一方で、自然や観光客が少なくなると考えます。

20年後にどのようなリーダーまたは、どのような役割の人材が求められるかについては、「周りをよく見て柔軟に対応できる人」「誰にでも寄り添うことができる人」「地域のことをよく知っている人」「時間や約束を守る信頼出来る人」が必要だと思います。

もし20年後、私たちが糸島市にいてもいなくても、今回学んだことを忘れずに努力していくので見守っていただくと嬉しいです。

## 閉講式



研修生16名が7日間のプログラムを受講し、無事に修了することができました。開校式では緊張の面持ちだった研修生の表情も、研修を通じて、これからの地域を支え、活躍を期待させる、たくましく、誇らしい姿になっていました。閉講式終了後、7日間を共に過ごした研修生たちは、写真を撮り合う場面も。新たな仲間との別れを惜しみつつも解散となり、プログラムは終了しました。



## 作文紹介

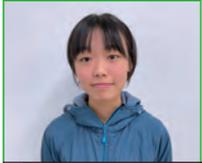


前原西中学校  
田中 真音

私がこれまでの研修で学んだことなかで、特に大切だと思ったことは二つあります。一つめは、「話すときは目的をきちんと伝える」ことです。これは、小津智一さんの講義から学びました。これが特に大切だと思った理由は、何か自分ではできないことを人に頼むとき、何をしたいのか、何のためにするのかなどを、正確に伝える必要があると思ったからです。

二つめは、「自分から出会いを求め、大切にすること」です。これは、林卓也さんの講義から学びました。これが特に大切だと思った理由は、いろんな人と出会い話すことで、新しい知識や考え方を知ることができると思ったからです。

私は、リーダーを支える人になりたいと思っています。そのために、日頃から伝える内容を考えて話すことと、いろいろなイベントに参加している人々の話を聞くことに取り組みたいです。私は今回のプログラムに参加して、貴重な体験ができたと思います。また、他の中学校の人とも交流することができて楽しかったです。



前原西中学校  
重富 彩月

私は、今回の研修を通して、人との出会いで可能性は無限大だということがわかりました。今までは自分から行くことはあまりありませんでしたが、自分から出ていくことで可能性が広がっていくと思うので、これからはもっといろんな場に行ってみようと思います。

また、他人の意見を聞いて物事をいろいろな角度から捉えることが大切だと思います。なので、同じ考えの人で集まろうとせず、違う考えの人にも積極的に意見を聞くようにしています。そして、どんな見方があるのかを想像して、総合的に判断したいと思っています。

私はこれから人と出会い、人の考えを大事にできるリーダーになりたいと思っています。その中で、あまり自分の意見を言わない人にも、どう思うかを聞いてみたり、発表しやすい雰囲気作りを心がけたいと思います。話をする時に、名前を呼んで話しかけることが大切だと思い、実践しています。これからも続けていき、この人になら話せるなと思ってもらえるリーダーになりたいと思います。



前原東中学校  
片倉 大河

私は個人発表で言った通り放射線技師になりたい。そのために毎日、医療単語を5個覚えようと思う。つまり、1.01の法則をしようと考えている。しかし、毎日やってみたら難しかった。何かかと言うと時間があまりない。つまり、だらけてしまっている。これじゃ0.99の法則になってしまうので、今後は、なにか医療単語以外になにか覚えるかスポーツでもしようかなと思った。

こちらのプログラムに参加しての感想は、普通ではあまり聞かれないような話を聞いて、社長のなり方やどのように自分で起業することが出来たのか話を聞いて、今後の自分に活かしていこうと思いました。

私は前回参加した時には、あまりリーダーになりたいという思いはなかったけど、私は中学生2年生になって生徒会に入りたいという謎の面白さを感じたので、人権委員長という専門委員長に立候補して、結果は落ちちゃったけど、普通は立てないような場所に立てたことを誇りに思ってるし、協力してくれるという感謝の気持ちを知ることができたので良かったです。



前原東中学校  
田中 怜

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、修学旅行の班長になったことでした。今までも積極的に班長を務めてきましたが、今回は修学旅行ということもあり、今まで以上に大変な仕事になると先生がおっしゃっていました。そこで、家族からこのプログラムの参加者を募集していると聞き、興味を持って応募しました。

プログラムの初日、私はとても緊張していました。しかし、アイスブレイクの時間に周りの人と打ち解け、すぐに緊張もほぐれました。そのおかげで、新しい友達もできました。

その後の体験プログラムを通して、自分が知らなかったさまざまなことを学び、特に印象に残った言葉があります。それは、「常識にとらわれずに、さまざまな視点で物事を見る」ということです。これは、講義の中で「虫が集まっている絵が、視点を変えるとミッキーに見える」という話を聞いたときに学びました。最初はただの虫の集まりにしか見えませんが、友達が「ミッキーに見える」と言ったのをきっかけに、私もようやくミッキーの形がわかりました。この気づきを得られたのは、友達のおかげだと思います。

この経験を通して、私は「さまざまな視点で物事を見られるようになりたい」と強く思いました。しかし、一人で考えるだけでは気づけることに限界があります。だからこそ、これからもいろいろな人と積極的に関わり、人とのつながりを大切にしていきたいです。



福吉中学校  
佐藤 虎史朗

研修中に私が1番の衝撃を受けたことは1.01と0.99の法則だ。この法則は1を普通の自分とすると、+0.01するか-0.01するか大きく変わるという法則だ。1日に3つの英単語を覚えるなどの+0.01を一年間続けると+3.65、逆にそれを怠りたりする-0.01を1年間続けると-3.65。私はこれまで決めたことを継続できず、-0.01になっていたのも少なからずとも続けて、+0.01になりたい。次に衝撃を受けたのは他の研修生との意見交流で『基準をつくる』と言うことだ。基準というのは何かをするときに絶対やることや、心がけることなどだ。私も何かするときに基準を作り、臨みたいと思う。

一番楽しかったのはBBQだ。研修生のみで楽しく、焼き、食べ、笑い、話せた。これにより他の学校の研修生とも仲良くなったといってもいいだろう。また、講義中でのいろいろなことが楽しく学べてよかったと思う。



前原西中学校  
桑代 紗雪

私はこのプログラムを通して新しく気づいたこと、学んだことが大きく二つあります。まず一つめは、一つの物事の見方を変える、広げることです。例えば虫の並びがミッキーに見える写真やしょうゆにプリンという一見合わないような組み合わせなどがあります。これは、マイナスなことをプラスに考えて行動できるので、新しい企画やアイデアを生み出すことにつながると思います。

二つめは新しいドアを開けることです。例を挙げると、帰り道でいつもと違う道を通ることで新しい発見があるかもしれないというような挑戦をし、発見をしていくことです。今の現状に満足するのではなく、もっと良くしていくために、積極的に挑戦していくことが大切だと学びました。

私は今回のこのプログラムで、発表会の班長になったり、講義でよく質問したり、あまり話したことのない人と交流ができたりと、たくさんの挑戦ができたと思うのでこれからの日常生活でもいつもより少し挑戦をしてリーダーとして積極的に行動していける力を伸ばしていきたいです。



前原東中学校  
吉川 美緒

私はリーダー研修を通して、目標を立てて行動することの大切さを知りました。研修で様々な目標を立てたことによって、「頑張ろう」と思えるようになりました。例えば、今まで話しかけたことのない人に話しかけるとい目標を立てたことによって、少し勇気が出て話しかけるようになりました。これからも目標を立てて取り組む事を大事にしていきたいです。

## 作文紹介



前原西中学校  
馬場 茜

私は今回の学習を通して色々なことを学びました。その中でも心に残った講義は3つあります。

1つめは、見えない未来の見つけ方の講義です。その講義ではフィールドワークについて知ることができました。フィールドワークで大事なことは、2つありました。1つめは、傾聴力です。口を「い」の形にしてにこやかに聞いたり、相づちをしながら聴くことが大切です。2つめは、質問力です。情報質問、感想質問、意見質問や過去、今、未来の質問などを使いこなして最善の質問ができるように聞きながら質問をすることが大切です。私はこの2つの力を使いこなして話す人が気持ちよく話せるようにしていきたいです。

2つめは、糸島サイエンス・ヴィレッジでの講義です。私はその講義でAIの無限の可能性を知りました。そして、これからの社会はさまざまなAIを駆使することでもっと明るくできるのではないかと思います。

3つめは、北伊醬油さんの講義です。その講義で、1.01の法則と0.99の法則を聞きました。その法則は毎日+0.01でも努力したら1年後には37.8成長したことになるけど0.01でも怠れば1年後には0.03倍になっているということなんです。私はそれを聞いて自分を変えなければと決意をしました。

私は、すべての活動を通して今後こんなリーダーになりたいと思いました。「みんなが相談しやすいリーダー」「人もAIも適材適所に配置して、使いこなせるリーダー」。そして、そのためにも、「毎日+0.01でも努力する。」「傾聴力や、質問力を活用する。」「AIについて日々学び続ける。」ということをしていきたいです。



前原西中学校  
宮口 誠太

僕は糸島プロジェクトでここに残っているのは北伊醬油さんのことです。北伊醬油の山上さんは、3年間和食店で修行し、その後北伊醬油に入社して代表取締役へ就任されました。代表取締役になったあとは北伊醬油について知ってもらいたいとの思いもあり、他の食材や分野に醬油をとり入れて知ってもらおうと工夫したり、北伊醬油の特有の杉桶仕込みの天然醸造に、地元の大豆を使ったりして昔から受け継いでいるやり方をしたりしています。また持続可能な社会への実現のために瓶を洗って何回もつかいゴミの量を減らしたりして社会貢献までされています。

北伊醬油さんの話では1.01の法則と0.99の法則が心に残りました。1.01の法則と0.99の法則とは例えば1が通常の自分だとすると、+0.01は、努力した自分です。逆に-0.01は怠けた自分です。これを続けていくと人生が変わってくるのお話がありました。僕はこれを聞いてコツコツと勉強していきたいと思いました。



前原東中学校  
城戸 孝希

今回の取組みを通して、何かを知るだけでなく、知った事を実際に自分のスキルにすることができて良かった。知るでは、身近な前原商店街を見て街の面白い！ところや、課題を共に回ったメンバーや九大生などと交流することで自分の考えを深められたり新たな考えをもつ事ができた。他にも糸島の食材はなぜ美味しいのか？普段気にしていなかった。糸島の魅力について知ることができて、良かった。

「自分のスキルにする」については、一回目の原口さんの講義の際に教えて貰った会話をする際のコツで、人の話を聞いているときは「口角を少し上げると良い」と教えて貰い、数日後の生徒会の演説などで活かすことができて、他の人たちに対して好印象を与えることができ、それもあり生徒会長になることができた。このように自分の

スキルにして、それを使い活かすことができたことから、今回の取組みをととても良いものにできて良かった。

今後は今回で得た事を友達に伝えたり、得たスキルを使って成長したい。いつかは、今回来てくれた講師のような人達になれるように頑張りたい！



前原中学校  
野本 彩乃

今回の研修に参加して、私は峰勝鋼機株式会社の林卓也さんの講演で「物事は見る方向によって全く違うものに見えるため、自分の考えだけでなく仲間にも積極的に考えを聞き、様々な角度から見て総合的に判断することが大事」だと学びました。物もそうだし、人も一つの面しか持っていないのではなく、たくさんの異なった面を持っていると改めて気づくことができました。人はどうしても他人の悪いところをばかり目がいきがちだから、悪い面だけを見て決めつけるのではなく、良い面を探し、それを相手に伝えるようにしていきたいです。

私の目指すリーダー像は、自ら進んで行動し、仲間とのコミュニケーションを大事にするリーダーです。自ら進んで行動することでお手本を示し、コミュニケーションをたくさんとることで仲間からの信頼が厚いリーダーになりたいです。そんなリーダーになるために、これから常に周りを見て自分ができることはないかを考え、日頃から積極的に仲間とコミュニケーションをとってきたいです。

今回の研修では自分の将来について考える上で、やれることよりやりたいことをした方が後悔が少ない、日々の小さな積み重ねが大きな成長につながる、など新しい視点を得ることができました。今までは何を基準に将来や自分のことなどを決めたらいいのかわからなかったけど、今回の学びを活かし、広い視野で判断していきたいです。



志摩中学校  
矢野 祐海

このリーダー研修を通して、いろいろなことを学んだ中で、特に印象に残っていることが2つあります。

1つめは、「もの見方によって、新しいことが見えてくる」ということです。1番最初の研修のとき、前原商店街を探索して、普段なら意識していないことでも、自分の目的や気持ち次第で、分かっていくことが違ってきたりすることを、知ることができました。

高祖神社夜神楽見学では、普通に見るだけじゃ「きれいな神楽だなあ」としか思わないことでも、どんな意味があるのか、どういう話なのか、などを意識すると、「こんな話なんだ！」「流れがわかると面白い！」と思うようになりました。

また、「糸島の歴史と豊かな食文化」や北伊醬油「郷土を想い未来を想う」では、毎日のように私達が目にするもの、口にしていくものでも、歴史や手間を知ることで、食についての見方が少し変わりました。

2つめは、おおざっぱに言うところ「人」についてです。今回のリーダー研修に参加した人の中には、人前で話すことが苦手な人、みんなの事をうまくまとめられる人、ふざけて人を笑わせられる人、めっちゃ頭がいい人、ゲームが上手な人、優しい人、物事に真面目に向き合える人、などなどいろいろな人がいました。その中でリーダーについて分けたとき、自分がリーダーになってみんなを引っ張りたいと思っている人、逆に、リーダーを影で支えたいと思っている人、に分れました。このとき気づいたのが、最初はみんなリーダーとして、頑張りたいと思っている人たちがばかりが集まっているのかなと思ってたけど、そうじゃなくて、リーダーに関する、色々な立場があり、その立場からみたらリーダーという存在がどんなものなのか、人によって違うということです。みんながリーダーだと、逆にまとまらないだろうし、支える存在が必要なんだということにも気づきました。このことから、意見や見方が人それぞれで、みんな違う立場だからこそ、築ける人間関係があるんだと思いました。

最後に、リーダー研修で学んだことを活かして、これからは、「人の立場(その人の意見、存在、長所・短所、性格など)を大切にすること」を意識して過ごしていきたいと思いました。また、リーダー研修に参加したからこそできた経験というのはこれからも役に立つだろうし、実行に協力してくれた皆さんがいたからこそできた経験です。7日間という短い間でしたが、本当にありがとうございました！！



前原西中学校  
内田 金志郎

僕が今までの研修を通して、二年間を通してまず、強く感じたのは、地域の発展に対して熱意を持っている人が多いということです。地域をより良くしようと活動する人々の存在が、糸島の魅力をさらに高めていると感じました。特に食文化や自然を生かした取り組みが多く、それが地域の人々のつながりを深めているのも印象的でした。また、地域リーダーの活動を通して、単に経済的な発展を目指すのではなく、住民同士の関係を大切にしながら成長しようとする姿勢が伝わってきました。例えば、地元の特産物を活用したイベントや、自然を守りながら観光を推進する取り組みなど、地域の特徴を活かした活動が多く見られました。さらに、リーダーたちの話を聞く中で、糸島には「みんなで支え合う文化」が根付いていることも感じました。地域の課題を

一人で抱え込むのではなく、みんなで解決しようとする意識が強く、だからこそ住みやすく、魅力的な街になっているのだと思います。これからも糸島の良さを守りながら、新しい挑戦を続けるリーダーたちの活躍や僕たちの未来に期待したいと思います。

コーディネーターから

## 心が動く瞬間が、未来を変える

今年の糸島市「未来の地域リーダー育成プログラム」には、市内5校から中学生が集まり、それぞれ異なる価値観や経験を持つ仲間と共に学び合いました。初めて顔を合わせた際は不安もあったかもしれませんが、たくさんの地域の大人の話を聞いたり、神楽見学、メンマスナック作りや特大サイズの鯖捌きなどの体験を通じて、交流が生まれ信頼が深まってきました。

私が特に印象的だったのは、2回目の合宿で行った「インフォーマル・コンステレーション」というワークです。「地域リーダーになること」に対する一人ひとりの考えを、体の位置や距離で示すこの活動では、リーダーになりたい人、リーダーを支えたい人、少し距離を感じる人、それぞれの想いが見えてきました。

なかでも「リーダーなんて…」と距離を置いた子たちの姿が印象的でした。「だって、班長やクラス委員にもなったことがない」と話す子もいましたが、果たしてリーダーとは役職のことだけを指すのでしょうか？私はそうではないと思います。リーダーとは、何よりも自分の人生を自分で切り開いていくこと。つまり、「セルフリーダーシップ」が重要なのです。そのためには、自分の「好き／嫌い」という感情や価値観を大切に、それを判断基準にしていくことが必要です。その意味では、「自分なんて…」と弱さを見せられることもまた、リーダーシップの一歩だと感じました。

この研修では、うまくいったこともあれば、思うようにできなかったこともあったでしょう。しかし、大切なのは、そのたびに何を感じたかです。感情を大切に、自分らしい思いを持って行動できる人になってほしい。それが周囲の心を動かし、変化を生むはずで、それこそがこれからのリーダーシップだと私は思います。

研修の終わりは、新たなスタートでもあります。自分を信じ、仲間を大切に、力強く前へ進んでください。皆さんの活躍を楽しみにしています。



株式会社 YUI 代表取締役  
原口 唯氏

2024 10/26~



2025 ~2/1

### ●学生ボランティアスタッフ

郡田 健太郎 九州大学 理学部 化学科 3年生  
小川 竜矢 九州大学 大学院 生物資源環境科学府修士 2年生  
丸田 典弥 九州大学 理学部 地球惑星科学科 4年生

山口 雄平 九州大学 経済学部 経済工学科 1年生  
井寺 智咲 九州大学 工学部 地球資源システム工学科 3年生

### ●実行委員会名簿

【実行委員長】 波多江 修士 糸島市 地域振興部長  
【副実行委員長】 金子 晃介 九州大学 准教授  
【監 事】 武田 巨史 糸島市 学校教育課長  
【委 員】 龍 慎一 福岡県 青少年育成課 企画監  
【委 員】 松村 遼 福岡県 青少年育成課 育成第二係長  
【委 員】 吉野 達哉 福岡県 青少年育成課 育成第二係 主任主事  
【委 員】 安部 祐子 糸島市 学校教育課 教育指導係長

【委 員】 大鶴 泰輔 糸島市 学研都市づくり課長  
【委 員】 吉岡 美奈子 糸島市 学研都市づくり課 大学連携推進係主任  
【事務局】 高橋 桂一 糸島市 生涯学習課長  
【事務局】 千代反田 崇 糸島市 生涯学習課 生涯学習係長  
【事務局】 角南 幸治 糸島市 生涯学習課 主幹  
【事務局】 福本 らん 糸島市 生涯学習課 生涯学習係 主事